

ADVICE 3

強い子供を育てる教育投資

将来、彼らが海外に出たときに、言葉が通じなくても共通言語となっていく。プロを目指すのではなく、幼いころに音感や体力などの基礎

自分自身が小学校2年生から大
学まで、海外で暮らしていたこと
もあり（妻も帰国子女）、子供た
ちも自然と海外に興味を持ってい
る気がしている。これからグロー
バル化の時代が加速することは間
違いないこと。日本だけにとど
まらず世界で活躍できる人間にな
ってほしい。教育のおカネのかけ
方も、その点を意識している。

世界で通用するための教育を 留学も視野に資金準備

シブサワ・アンド・カンパニー
代表取締役
渋澤 健さん

大手ヘッジファンド元日本代
表などを経て'01年から現
職。渋澤栄一の5代目子孫。
'09年「30年投資」を目的と
したコモンズ投信を立ち上げ
（詳細は100ページ）。

子供構成

8歳男子(公立小学校)
7歳男子(公立小学校)
5歳男子(幼稚園)



3人の息子は元気盛り。自然体験を重視

わが家の教育方針

世界で活躍できる 強い子供に育てる

グローバル社会で息子たちは親世代よりもさらに世界で活躍できる人間になることが当たり前になる。世界に通じるため、音楽やスポーツの習い事もその一環だ。何より人生で最も大事な「楽しむ」ことの大事さを、親が伝えるようにしている。

習い事はさかせているが、塾には行かせていない。12歳までは人間の基盤となる、思いやり、礼儀、愛情などを、親から学ぶとても大

今は親子の時間を大切に 自然体験を日いっぱい

だけは習得させてあげるのが大事
だろうと思っている。ちなみに英
語は、私たち夫婦で時々英語で会
話をして慣れさせる程度である。
小学校は公立。中学校で私立を
受験させるかどうかは未定だ。も
しかしたら、高校あるいは大学で
は「海外留学」という選択肢があ
るかもしれないと考えている。そ
の場合、おカネがかかるのは子育
ての後半ということになる。今は
資金をためるときだと、一生懸命
積み立て中だ。

渋澤健さんの子育てに影響した「おじいさんのおじいさん」の言葉とは？

子育てに役立つ 渋澤栄一の「教え」

知るより好く 好くより楽しむ

物事をただ「知った」だけでは興味はわかないが「面白い」と思えば行動に出る。そして行動して「楽しい」と思えばどんな困難も乗り越えられるもの。楽しいと感じることを大事に。

短所を直すより 長所を伸ばそう

自分の長所を見つけてそれを伸ばすように努めれば、短所はいつの間にか消えてしまう。現在の日本の教育は短所を指摘して正すのが基本方針となってしまった。一人一人の個性を認めよう。

勉強の詰め込みは やめよう

知識を詰め込むばかりの学習では、子供たちは学ぶことが嫌いになってしまうだろう。子供が自分で考え、疑問を持ち、知ることの喜びを感じさせてあげることが何より大切だ。

渋澤栄一氏の残した言葉の中には、時代を超えて現代の子育てにも活用できる言葉がたくさん。健さんの子育てにも影響を与えている。（渋澤健さんの著書「巨人・渋澤栄一の「富を築く100の教え」」（講談社）より）



子供の知的好奇心を刺激する図鑑がズラリ。息子たちも大好き。

切な時期。早期教育と塾におカネをかけるよりも「親子が一緒に過ごす時間を大切に」のが一番だと思ふ。平日は残業せずに少なくとも2日は家族と一緒に夕食をとる、と決めて頑張っている。今、一番、おカネをかけているのは「自然体験」だろうか。子供キャンプに参加させたり、家族旅行で田舎に行ったり、ということにはおカネは惜しんでいない。本棚にたくさん用意された図鑑を見て、虫や植物に興味を持ったならば、今度は親が自然のたくさんある所に連れていき、「行動」につなげてあげる。東京は子供たちが冒険できるような場所がない。山の中で伸び伸び動ける時間をつくってあげると、子供たちもうれしそうだ。渋澤栄一が論語の中から取り上げた教えで「知るより好く、好くより楽しむ」という言葉がある。細かい教育ノウハウを持ち合わせているわけではないが、この言葉が私の子育ての根幹。好奇心をたくさん刺激してあげて「楽しい」と思えることに出会ってほしい。楽しんでいけば、周りの人を巻き込んで、より大きな喜びにつながるもの。……というのは今、自分が仕事（ファンド立ち上げ）でまさに体感していることなのだ。